

余吾 豊 Yogo, Yutaka

(所属) (株) ベントス

〒819-11 前原市有田 513-1

☎(092) 323-3765 FAX (092) 323-0773

(自宅) 〒811-41 宗像市自由ヶ丘西町 7-6

☎(0940) 33-2274 FAX (0940) 33-2274

吉村 圭三 Yoshimura, Keizo

(所属) 北海道立稚内水産試験場資源増殖部

〒097 稚内市室来 4-5-4

☎(0162) 23-2126

(自宅) 〒097 稚内市栄 1-2-26

☎(0162) 32-4583

#### 団体会員

神奈川県水産総合研究所相模湾試験場

〒250 小田原市早川 1-2-1

☎(0465) 23-8531 FAX (0465) 23-8532

#### 退 会

#### 個人会員

Ray S. Birdsong, 奥谷喬司, 白井敏彦, Gordon R. Williamson

### 編集後記・Editorial Notes

魚 類 学 雑 誌  
42(3/4): 351, 1995

今回は 3/4 号合併号です。ご承知のことと思いますが、黄色い表紙の魚類学雑誌も本号が最後となります。来年からは大きく装いをかえた英文誌 “Ichthyological Research” (年 4 回; 2, 5, 8, 11 月発行) と和文誌 “魚類学雑誌” (年 2 回; 5, 11 月発行) (両方とも A4 変形版です) がお手元に届くこととなります。新雑誌の表紙は、落ちついたアースカラーを基調に水色の魚のシルエットを活かした斬新なものです。従来のジャーナルの表紙とはあまりにも異なるため、最初は違和感をもつかもかもしれませんが、前評判はなかなかのものです。

新雑誌への移行に伴い “原稿作成上の注意” が若干変更されました。大きな変更はありませんが、新たにキーワードの欄をもうけました。投稿の前に投稿規定と原稿作成上の注意をよくお読みくださるようお願いいたします。(MM)

英文原稿を書く場合には、英語を母語とする外国人に校閲してもらうことをお勧めします。それぞれの分野に応じて校閲を依頼する相手は変わってきますが、遠慮せずに手紙を書いて校閲を頼むとよいでしょう。

心当たりの専門家がいなかった場合には魚類学雑誌の原稿を校閲している Dr. Graham S. Hardy に頼めば引き受けてくれます。英文原稿 1 枚につき 1,000 円という破格の料金でみてくれます。彼の連絡先は下記のとおりです。

Dr. Graham S. Hardy  
P.O. Box 721  
Thames  
New Zealand  
Fax: 64 (国番号) -7-868-2992

本来、英文の表現は著者がきちんと整えて出すべきものです。編集委員やレフリーは原稿の内容を中心に校閲します。もちろん、表現についても助言をしますが、それをあてにして原稿を作成するのは建設的な態度とは言えません。編集委員もレフリーも魚類学雑誌の内容向上のために努力していますが、皆さん忙しいのはお互い様です。なるべく負担をかけないように投稿前に表現を整えるように努力して下さいますようお願いいたします。(KM)